

歴史再発見

記録の保管庫

「ふるさとの写真集」



◆[郡役所](#)

明治二十年十二月二十二日竣工。昭和四十六年中央公民館建設のため、明治の洋風建築の偉容を誇った元佐伯郡役所庁舎は取り壊された。



◆[明治三十年開業の甘日市駅](#)

国鉄の歴史は、明治五年東京新橋と神奈川横浜間の陸蒸気(おかじょうき)に始まる。山陽線は山陽鉄道会社により明治三十四年五月に神戸-馬関(下関)の全線が開通。甘日市駅は明治三十年九月二十五日に開業。広島以西で同時に横川・己斐・宮島・玖波・大竹・麻里布が開通、五日市は明治三十二年十二月、大野浦は大正八年三月に開通する。



◆[甘日市の新名所 桜尾館](#)

桜尾館は甘日市港東側の現在の中国醸造 入り口一角を千余坪埋め立てた地にあった。明治三十六年六月開業。潮湯の海水のむし風呂、いな池の養魚場、集会、保養と甘日市の新名所となった桜尾館も大正五年に桜尾新開の再建工事により閉鎖されてしまった。



◆[潮音寺](#)

永禄九年(1566)龍天上人開基のころは海浜の地で、寛文三年(1663)に潮音寺新開が高洲新開の地先に出来て潮の音が聞かれなくなった。慶応元年(1865)最初の農兵隊、応変隊が結成される。



◆[パラダイス](#)

株式会社甘日市パラダイスは、北米風の大屋根がひときわ目を引く建物で甘日市港の住吉社の土手下に大正十三年十二月に開業。プールで有名であった。当時あんぱんは一個二銭、プールの使用料はきつねうどんと同じ五銭で、金銭感覚としては高く感じたという。潮湯・大食堂が中心で現在のヘルスセンターのような施設で一日平均三百五十人位の利用があり、広島、呉あたりからも訪れたいそう賑わったようであったという。



◆桜尾山

厳島神社藤原神主家の居城であった桜尾城が慶長五年(1600年)関が原の戦後、毛利氏が防長へ転封(領地の移し換え)になり、毛利氏支配の終焉に伴い、桜尾城は次第に荒廃、広島藩の御建山(おたてやま)となった。

こうして承久三年(1221)鎌倉幕府御家人藤原親実以来、約400年続いた桜尾城の幾多の歴史はここに静かに終わりを告げる。山の水際の先の現宮島街道の沖合に桜尾新開が築造されたのは文久二年(1862)。台風により明治期には7・17・33年と幾度となく被害を受け、大正五年頃まで満潮時には浸水し、干潮時には烏帽子岩(えぼしいわ)が姿を見せ、ナマコが採取できたという。